



在宅療養患者の感染予防対策における 指衛生推進戦略の構築

保健福祉部 看護学科
教授 岡田淳子（おかだじゅんこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3522号室
Tel 0848-60-1120
E-mail ojunko@pu-hiroshima.ac.jp
* @は半角に置き換えて下さい

専門分野： 成人看護学

キーワード： 看護技術, 清潔ケア, 感染管理,
地域連携, 難病支援

● 現在の研究について

看護師が実践する一つひとつの看護ケアには、看護技術の合理性を示す理論的証拠があります。看護の現場では、その理論的証拠に支えられた質の高い看護を提供し、対象に応じて看護ケアを応用・発展させています。

看護技術における理論的証拠とは、①作用機序 ②効果 ③安全性 ④手技や手順といった客観的法則があることです。これらは、研究によって得られたエビデンス evidence に基づいていて Evidence-Based Nursing (EBN) といいます。すなわち、比較的新しい研究によってもたらされた信頼性の高い証拠のある看護は、単なる経験ではないため、病む人の日々の生活を豊かにし、健康に貢献することは間違いありません。

看護師がエビデンスに基づいたケア提供者となるために、現在は、清潔ケア技術の効果の検証を行っています。入院や健康障害によって放置されやすい患者の手指衛生を向上させるために、医療関連感染の観点からアプローチする研究に取り組んでいます。そして、看護師が実践する清潔ケアによって医療関連感染が減少し、患者のQOLが向上することを目指しています。

看護研究は看護実践を客観的・論理的に実証し、研究結果は臨床への適応に根ざしたものであると考えています。今後一層、研究成果に基づいた看護実践を迫及し、EBNの実現と、看護ケアの質を向上させることに寄与する研究を推進していきたいと思っています。

● 今後進めていきたい研究について

在宅医療の推進と普及により、国民は住み慣れた地域で療養生活を送れることを期待する一方で、医療体制について不満と不安を抱いています。そのため、安全な在宅療養のために必要な感染管理を構築します。また、人生の最後まで安心して居宅を医療提供の場として、療養生活ができるための要素を療養者の立場から明らかにしたいと考えています。そして、多職種協働で進める在宅医療の形態を構築するための研究に取り組む予定です。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

地域包括ケアシステムが推進されるなかで、安心・安全な医療を提供できる医療従事者の人材育成が必須になっています。特に、チーム医療推進の観点から看護職に期待される役割は大きく増大しています。そのため、地域の関連団体と協力して学生がボランティア活動に参画できる機会を作り、看護師として健康問題に柔軟に対応できる人材を育成することを目指しています。

● これまでの連携実績

- ・ 日本 ALS 協会広島県支部運営委員
- ・ 介護職員等によるたん吸引等の実施のための第3号研修会開催（年1回）
- ・ 広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師
- ・ 尾道総合病院倫理審査委員会委員